トラクタとコンバイン

海外向けに2機種3型式

井関農機29年度上期新商品

木下社長

井関農機（木下榮一郎社長）は昨年12月14日、「平成29年度上期新商品発表会」を夢総研で開催し10品目16型式を発表した。本紙では回を分けこれを紹介しているが、3日目となる今号では、海外向け商品として、中国市場向けに高馬力で軽量コンパクトを実現したトラクタ1機種2型式と、東南アジア向けに開発した汎用コンバイン1機種を紹介する。

【中国向けトラクタ】T804（80馬力）・同954（95馬力）。

中国国内メーカー製のトラクタが主流となっている中国市場では高性能・高能率のニーズがあり、特に請負業者や営農集団から稲作向けで高馬力かつ軽量コンパクトなトラクタの要望がある。そのため高馬力で軽量コンパクト、小回りのきくトラクタを新発売。

T954（キャビン仕様）

HC80P

《主な特長》①大排気量・高トルクエンジン＝世界的に信頼と実績のあるPerkins社製エンジンを搭載。同クラスの中では大排気量・高トルクで幅広い作業に適応。②多様な作業に対応できるトランスミッション＝主変速6段、副変速2段の前後進12段多段トランスミッション採用により、多様な作業に対応。シンプルで耐久性の高いフルシンクロメッシュを採用しておりスムーズな路上走行を実現。③充実した装備＝▽パワーリニアシフトレバー：前後進切替がハンドルから手を離すことなく、クラッチを踏む必要も無い。簡単で快適な作業を実現▽インディペンデントPTO：走行状態に関係なく、ボタンスイッチを押すことでPTO出力の入・切を切替可能▽超ハイラグダイヤ：湿田走破性が高い、「超ハイラグタイヤ」も選択可能▽外部油圧1連標準装備▽豪華キャビン（T954キャビン仕様）：充実した内装で、エアコンも標準装備しており、季節を問わず、長時間作業でも快適▽サスペンション付デラックスシート（T954キャビン仕様）：長時間でも疲れにくい。

発売時期は平成28年12月。

【東南アジア向け汎用コンバイン】HC80P。

近年、東南アジア市場では社会構造の変化に伴い、農村から都市部への労働力の流出が顕著になっており、減少した労働力を補うために農業の機械化が急速に進んでいる。

特に、収穫作業は、より多くの労働力を要するため機械化の要望が高まっている。東南アジアの作物・圃場特性とユーザーニーズにマッチしたHC80Pを投入し生産性向上に貢献する。

《主な特長》①コンパクト設計＝インフラが未発達の東南アジアで多く見られる幅の狭い道路での移動や運搬と、小区画圃場での作業に適したコンパクトな車体を実現②優れた操作性＝「リール上下スイッチ」を一体化した「マルチパワステレバー」で、複数の作業を同時に簡単に行える③高作業効率＝▽刈取逆転装置で刈取部に詰まりが発生した際に素早く除去▽バーツース小径ドラムこぎ胴：現地の稲に最適な脱穀こぎ室空間を生み出す「バーツース小径ドラムこぎ胴」の採用で、脱穀負荷を軽減▽ラセン外径160㎜の「大径ロングこぎ胴」と「ハイリフトオーガ」を装備、籾の排出時間を短縮▽大容量脱穀部：「大径ロングこぎ胴」と「ワイド&ロング揺動棚」の採用で安定した処理能力と優れた選別能力▽搬送ラセンの引継ぎ部にボルトで取り外しが可能な補強ラセンを追加し耐久性とメンテナンス性が大幅向上▽高馬力・高トルクの80馬力井関ディーゼルエンジンの搭載で、作業速1・55m／sの高速作業を実現。湿田などの悪条件下でも粘りのある収穫作業が可能。

平成28年12月発売。

キセキ3社合同 新春祝い市in三重

〝改革〟で変化に対応

来場者4000名、売上高9億円

三重キセキ販売・奈良キセキ販売・キセキ東海共催の、東海・関西地区合同展示会「新春祝い市in三重」が1月20日・21日の両日、三重県津市のメッセウィングみえで開催された。5県から約4000名が来場、大盛況で売上げ目標の9億円を達成した。今回は〝改革〟をサブテーマに、ICT・野菜作・防除（ドローン）関連の製品を前面に、変化する農業形態・対応する最新のハード・ソフトを提案。中でも直進アシスト仕様の田植機NP80D—ZやドローンのIC実演に注目が集まった。

〝新春祝い市〟は今年で26回目で、メインテーマは「夢ある農業応援団」。サブテーマは〝改革〟を掲げ、変化する日本農業に対応した製品群をラインアップ。三重・愛知・岐阜・静岡・奈良の担い手、中・小規模農家が来場、大盛況だった。展示会の柱は①ICT②野菜作・防除で、最新鋭機、ソリューションを紹介した。本機の出展台数は80点、協賛メーカーから約270点出展。会場中央にはICT活用の「アグリサポート」コーナーを特設。GPSガイダンスシステム〝リードアイ〟搭載トラクタ、収量センサ搭載のコンバイン、土壌センサ搭載可変施肥田植機、直進アシスト仕様田植機等、進化する農業用ICTの優れた性能〝見える化〟を映像と合わせプレゼン。

②の野菜作コーナーでは、タマネギの機械化一貫体系を紹介。全自動移植機PVZ1、タマネギ収穫機VHU20、乗用管理機JK18など土づくりから収穫までの省力化・低コスト化を提案。

③の防除コーナーでは薬剤散布用マルチローター（ドローン）「マルサンダックス04」の実機を展示。また、屋外実演場では、実機を飛行させ、手足のように自由に使える、散布作業をアピール、来場者の注目を集めた。中・小規模農家が多い奈良県の農家は「棚田の防除作業が楽に行え、重労働から解放される」と驚嘆していた。

このほか、トラ・コン・田・関連商品を各コーナーに分け展示。担い手農家向けには、トラクタTJVシリーズ、コンバインJapan612 3、田植機NPシリーズの大型機をアピール。一方、地域にマッチした中・小規模農家向けの20psクラスのトラクタRTSシリーズ20～25、コンバインは2条刈クラスのHNシリーズ、田植機は4条植PQZシリーズ等、主力製品が勢揃い、各コーナーで熱い商戦を繰り広げた。

新商品発表は、モデルチェンジしたトラクタRTS25、刈取りスタートレバー装備のコンバインHFC435の2機種が紹介された。

屋外の試乗コーナーでは、トラクタTJVシリーズのホイル仕様、セミクローラ仕様、RTSキャビン仕様に直進アシスト仕様の田植機が登場。東海地区ではセミクローラタイプの需要が少なく、初めてセミクローラを体感する人が多く、人気を集めた。また、直進アシスト仕様田植機も初試乗が殆どで、担い手農家が関心を示した。

トラクタとバストマッチの作業機も充実。NTA543に装着のスピードカルチやオートあぜ塗機、リバーシブルプラウ等、各種作業機が出展。

応援に駆けつけた、菊池昭夫井関農機専務は「グループ最初の大展示会で、この動きや状況が今年を占うシンボリックな展示会。総力をあげ取組んで頂きたい」と激励。

左から藤原キセキ東海会長、竹島奈良キセキ常務、佐竹キセキ東海社長、菊池井関農機専務、松田三重キセキ社長

井関本社の菊池専務を囲んで

注目を集めた直進アシスト仕様田植機

ドローンの実演も注目された

チェンソー等高い関心

目標超える来場者で活況

やまびこ 造園緑化機械展示会開催

永尾社長

やまびこ（永尾慶昭社長）の販売会社・やまびこ東部主催の「造園緑化機械展示会」が1月20・21日、やまびこ本社特設会場で開催した。昨年発売開始して好評を得ている軽量トップハンドルソーのほか、刈払機やヘッジトリマーをはじめとした造園業者向けの新製品や有力製品がズラリ。チェンソーアートや大抽選会なども行われ、賑わいを見せた。

やまびこ＝東京都青梅市末広町1—7—2＝本社で開催された「造園緑化機械展示会」は、同社らなる周知を目的に開始。いまや毎年、新春の恒例イベントとして定着。今年も初日には400名を超える来場を記録し、2日目も時間と共に混雑度が高くなり、想定していた来場者数を超え750名超を記録した。

出展機種は、共立「CS251T」、新ダイワ「E2025TS」の軽量トップハンドルチェンソーをはじめとするチェンソーや、新製品の共立「SRE2230」、新ダイワ「RA3021」の軽量刈払機といったメイン機種となるチェンソー・刈払機をはじめ、ヘッジトリマー、パワーブロアエンジンセット動噴、ラジコン動噴、各種防除製品、根切りチェンソー、ウッドチッパー、バロネス草刈機、オーレック製品、発電機、クローラー運搬車、石材用運搬車、電動トリマー、電動チェンソーなど「共立」「新ダイワ」両ブランドの有力製品を中心に大小合わせて約1500点。製品コーナー毎に目玉となる製品を展示し、デモ機も豊富に準備。多くの来場者が使い心地などを確かめていた。また、ワンポイントメンテナンスなど安全作業のためのお役立ちコーナーを設置したほか、彫刻家の蘭二朗氏によるチェンソーアートの実演を実施。見事なチェンソーさばきで今年の干支となる酉年にちなんだ彫刻を作りあげていた。

会場内を歩いて感じたのが〝勢い〟。毎回目玉商品を2日間限定の特別価格で販売することもあり、それを目当てに来場している関係者も多かったようだ。会場で芝刈機者に聞くと「毎年来て少しずつ機械の更新をしている。個人宅もやっているから仕事は増えている。異業種からの参入もあって競争は激しくなっているが、業界全体としてはオリンピックもあるし、これから良くなると思う」と話してくれた。また、今日だけで数百万円近くの注文をしたという話を聞くなど、仕事量が増える前に、片腕となる機械の充実を図ろうとしている業者も多く、今年も好況感を持続しそうな雰囲気を感じた。

会場入り口で応対していた、やまびこ東部の大森亮人社長は、「3月末で決算を締めるがまずまずの業績で推移しており、今年も攻めの営業展開を行っていきたい。農業・造園や林業を含む緑化管理分野について、ますます我々の使命や役割が大きくなると感じている。リーディングカンパニーとしての自負を持って、お客様のご期待に応えられるサービスと販売戦略をもって取り組んでいく」などと述べた。

チェンソー・刈払機コーナーには有力製品がズラリ

蘭二朗氏によるチェンソーアートも行われた

ネギの新型根葉切り機

マツモト スーパーきり子と同Jr.

松本社長

マツモトは創業以来、約40年にわたって、各種ネギの調製機を開発。ユーザーからの信頼度は極めて高いが、販売台数が増えるのに伴い、商品に対する要望もいろいろと強くなってきた。今回の新商品はそういった声に応えるべく開発したもの。

【スーパーきり子】長ネギ用、MNC—DXL型。従来の〝きり子〟をフルモデルチェンジした商品①大型バケットの採用でネギが載せやすくなったばかりかネギ同士の干渉がなくなり、根葉切り精度がアップ②ラインレーザー光線により切断の位置決めが簡単で、各産地の出荷規格に合わせた切断が可能③オプションコンベアで根葉切りから皮剥ぎまで連続処理ができる。また、所定の高さまで搬送可能④切断モータの容量を30%アップ（同社比）させたことにより、根葉切りがよりスムーズに⑤処理能力は従来機の40%アップ。毎時2300本処理が可能（50Hz）。

《仕様》▽全高＝970～1120㎜（4段階調節）▽全長＝本体のみ1545㎜、作業時3000㎜▽重量＝102㎏▽能率＝毎時2300本（50Hz時）▽モータ＝AC100V、120Wモータ×2個、40Wギヤーモータ×1個▽価格＝63万5000円（税別）。

【きり子Jr.】短ネギ用、MNCS—DXL型。短ネギ生産者からの強い要望で開発したもの。機械の設計は〝スーパーきり子〟と同じながら、新型バケットの採用で短ネギの根葉切り作業が可能。

《仕様》▽全幅＝895㎜▽重量＝98・5㎏▽価格＝69万8000円（税別）。他の仕様は〝スーパーきり子〟と同じ。

なお両機種とも発売は4月の予定。

【松本社長談】当社ではこれまでネギ調製に関するいろいろな機器を開発してきたが、このところネギ生産農家の変化の波は大きなものがあり、本日、披露した商品は、そういった波に合わせたものだ。今後とも、産地の声には謙虚に耳を傾け少しでもお役に立てる商品づくりを目指したいと思っている。

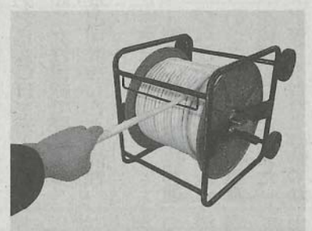
スーパーきり子（長ネギ用）

きり子Jr.（短ネギ用）

ネギ調製機器の専門メーカー、マツモト＝松本穣社長、高崎市倉賀野町2454—3＝は1月26日、同本社に報道関係者を招いて新商品を披露した。新商品はネギの根葉切り機〝スーパーきり子〟（長ネギ用）と同〝きり子Jr.〟（短ネギ用）。いずれも、ユーザーの要望に応えるべく、長年にわたって培ってきた技術とノウハウを注ぎ込んだ自信作（松本社長）。

移動が楽で安定作業

永田製作所 ホースリール・キャスター付


角型ホースリール・キャスター付

永田製作所＝田中寿和社長・大阪市西淀川区千舟1—5—41、電話06—6473—0835＝は、角型のホースリールに、移動が楽にできて使いやすい「角型ホースリール・キャスター付」を開発、発売を開始した。

新製品は、従来品のストロングリールにキャスターを取り付け、移動が楽にできる機能を付加したもの。これにより、使用時の負担が軽減できる製品に仕上がった。ユーザーから「移動時に重くて大変」という意見があいやすい「角型ホースリール・キャスター付」を改良したもの。

本品使用時は、本体を90度に倒し四輪キャスターを側面にして使用することで、安心で安定した作業ができる。次に移動する時は、本体を元に戻せば簡単に移動できる。

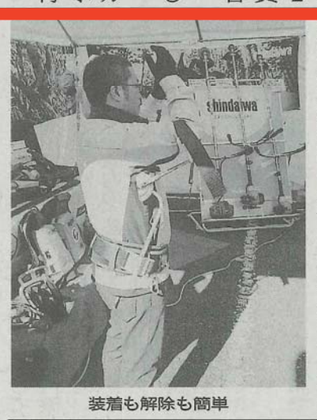
製品種類は3型式①角型ホースリール・キャスター付②同SLK—150▽寸法＝車幅540×全奥520×全高500各㎜▽質量＝11・8㎏▽巻取り容量＝径8.5㎜で150m。3型式とも接続部のねじはG1／4より戻し付。

また「角型ホースリール・キャスター付」に、ホースを装備したホース付製品も同時発売。

寸法＝車幅470×全奥420×全高420各㎜▽質量＝8.1㎏▽巻取り容量＝径8.5㎜スプレーホースで50m②同SLK—100▽寸法＝車幅470×全奥520×全高500各㎜▽質量＝11・1㎏▽巻取り容量＝径8.5㎜スプレーホースで100m③同SLK—150▽寸法

ニッカリ 果樹園作業の味方

軽量腕上げ作業補助器具


装着も解除も簡単

ニッカリ＝岡山県岡山市東区大寺川口465—1＝は、1月20・21日に東京都青梅市内の、やまびこ本社で行われた「造園緑化機械展示会」で果樹用腕上げ作業補助器具『腕楽っく（うでらっく）』を出展。実際に装着して稼働する様子を披露し、注目を集めた。

同商品はブドウ園などの果樹園内で腕を上げて行う作業時の負担を軽減するために開発したもの。モーターやバネを使わず任意の高さでしっかり支持してくれる。作業に合わせて角度調整ができ、脇を開くと支持状態を簡単に解除。体型に合わせて装着が可能だ。1.8㎏と軽量なため、女性や高齢者作業者におススメしたい商品だ。

今年春の発売予定。電話086—943—0061国内営業部へ。

品質向上や収量増に

パルサーインターナショナル オルガミンDA

5L（左）と1Lボトルを用意

パルサーインターナショナル＝井上倫平社長、東京都八王子市城山手1—31—1＝の天然アミノ酸バイオ肥料「オルガミンDA」が全国の農家に浸透している。従来商品をパワーアップし希釈倍率を1000倍まで薄めることを実現。主に魚と糖蜜を発酵させた天然アミノ酸が主原料。そのアミノ酸群が、根や茎、葉、果実の成長を促し、高温や低温障害や病害に対する抵抗力を増大させるだけでなく、作物の品質向上や収量増にも貢献する。ぶどうやトマトなどさまざまな作物で実績を上げており、「オルガミンDA」の導入実績や詳細は電話042—666—1662へ。http://www.pulsar.co.jp/

三國慶耿氏逝く

和同産業 取締役相談役

関係者700名が参列した

1月11日、83歳で逝去した和同産業㈱取締役相談役・三國慶耿氏（本紙一部既報）の葬儀が1月20日、岩手県花巻市・渡り温楽〝さつき〟で、しめやかに執り行われた。喪主は長男の三國開郎氏。葬儀委員長は同社社長の照井政志氏。

故人は昭和55年5月から平成24年3月まで同社代表取締役社長として敏腕を振るい、同社を全国規模の作業機、除雪機メーカーに育て上げた。

葬儀では照井社長が故人の優れた足跡を紹介すると同時に、上田東一・花巻市市長、宮澤敬祐・花巻商工会議所会頭、川合幸雄・本田技研工業熊本汎用機工場工場長、高橋豊・みちのくクボタ社長、山崎俊博・和同産業執行役員外商調達部長などが弔辞を述べた。当日は故人の遺徳をしのび約700名が参列した。